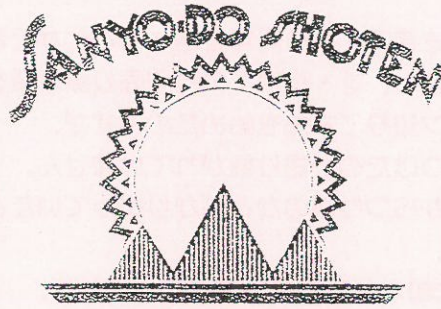


山陽堂だより 92

2017年3月 弥生



山陽堂書店

03-3401-1309

3/1(水)~3/10(金) 日祝休 月-金 11時-19時 土 11時-17時

『みすず書房旧社屋』 潮田登久子 写真展

本と本の置かれた環境を主題にして
1995年頃から撮りためた写真を、
3つに分けて『みすず書房旧社屋』
「先生のアトリエ」「本の景色」とし、
「本の景色 / BIBLIOTHECA」シリーズとして
3つの写真集にまとめました。
本写真展は、その中の『みすず書房旧社屋』を
展示いたします。 潮田登久子

計幸良
山陽堂イラストレーターズスタジオ
講師のPT(1/17) 長友啓典氏
から3月4日(土)午前4時28分
永眠されました。安西水丸さんの
時世を受け継いで、そしてまた
次世代へとバトンタッチしてい
ければ、と二月講師をお引継
げいただきました。約2年間イラス
レーションのことは、けいこはなく、
目に見えない大切なことを
教えられたこと、ありがとうございました。
そのことを、言葉にしようとしてい
ます。

3月の書籍ベスト5

1. 馬場団長殺し 第1部 村上春樹著
2. 馬場団長殺し 第2部 村上春樹著
3. それでもこの世は 悪くなかった 佐藤愛子著
4. とまりのイスラム 内藤正典著
5. 森に眠る魚 角田光代著

3月の雑誌ベスト5

1. 家庭画報3月号 京都の醒醐風味
2. SPUR 3月号 春、私はユースになりました
3. モダンリビング 豪邸、拝見! 2017
4. POPEYE 3月号 二十歳のとき、何をしてたか?
5. エルシヤ本オン3月号 春アトリエ大回覧
5. GINZA 3月号 ロマンスに気をつけろ

3/14(水)~4/1(土)

『春の安西水丸展 ③』

安西水丸さんの作品(山陽堂コレクション)、
『週刊読書人』で連載されていた8回分の記事などを
展示いたします。

山陽堂のギャラリーは、本屋の階段をあがった2階と3階にあります。
絵や写真をあまりご覧になる機会がない方も、どうぞお気軽に
お立ち寄りください。ギャラリー山陽堂は敷居の高くないギャラリーです。

山陽堂は創業126周年を迎えました。

3月5日、山陽堂はおかげさまで126周年を迎えることができました。初代が明治21年岡山から上京し、芝・京橋での新聞売り捌き業を経て、明治24年現在のアンデルセン辺りで本屋を始めたのですが、なぜ「山陽堂」という名前をつけたのか語り継がれていません。岡山出身ですので「山陽道」からつけたのかとばかり思っていたところ、昨年新事実が判明したのです。

20年程前、「山陽書房」と書かれた古い額をみつけました。なぜ山陽堂なのに山陽書房と書かれているのだろう、もうぼろぼろだし処分した方がいいかなと思いつつそのままにしておきました。

(後にその書は「明治の三筆」と言われる中林梧竹のものとなりました)

昨年、創業125年のまとめをするにあたり、国会図書館デジタルコレクションの検索で「山陽堂」を調べると出版もしていたことがわかり、奥付を確認することで店がどのように青山周辺を移転したかもわかりました。

最近になって「山陽書房」では検索していなかったことに気づき調べてみると、初代が『山陽書房』という出版社名で

『頼山陽先生唐詩帖』(1912・明治45年2月10日発行)を出版していました。

*頼山陽(1780~1832)江戸時代後期に活躍した漢学者・文人で、幕末の志士たちに多大な影響を与えた歴史書『日本外史』の著者

初代は漢文を学んでいたと聞いていますので、

もしかしたら、「頼山陽」から店の名前をいただいたのかもしれないと思いました。

創業から126年を経て、山陽堂の名前の由来をあれこれと推測できるのも、史料がデジタル化されインターネット上で気軽に検索できるおかげです。

WEB時代到来は、「これまでの本屋」にとっては厳しいものですが、WEB時代だからこそその本屋の在り方があるのではないかと考えています。これからもこの青山の地で山陽堂書店を続けていきたいと願っています。みなさまどうぞよろしくお願いたします。

山陽堂書店

